

「雷別ドングリ倶楽部」の活動について

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
白藤未人

1. 課題を取り上げた背景

当ふれあいセンターでは、釧路湿原の北東に位置するシラルト口沼の上流域にある雷別地区国有林（図 - 1）において、トドマツ人工林が気象害により立ち枯れし笹地となった箇所（写真 - 1）を対象として森林再生に取り組んでいます。

この事業は、自然再生推進法に基づいて設立された釧路湿原自然再生協議会の協議を経て、平成 19 年 9 月に作成した「雷別地区自然再生事業実施計画」に沿って実施しているものです。

自然再生の取組に当たっては、自然再生推進法に「自然再生とは、過去に損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻すことを目的として、地域住民等、地域の多様な主体が参加して、河川、森林等の自然環境を保全したりすること。」が謳われています。

当ふれあいセンターも事業実施計画において「森林再生に伴う各種作業で、市民参加が可能なものについては、なるべく、市民の参加の下に行うよう努めるものとする。」としたところであり、平成 18 年度から、「雷別自然再生学習会」などを開催して、市民に事業への参加を広く呼びかけてきました。

2. 倶楽部を立ち上げるまでの経過

平成 18 年 10 月、雷別での事業について、一般市民にも理解を得るために、初めての自然再生学習会を開催しました。一般公募による参加者に事業の概況説明等（写真 - 2）を行い、最後に「雷別の森林再生は苗木の育成から植栽後のモニタリングまで市民参加型で実施したいので、今後とも継続してこのような取組に参加をお願いしたい。」



図 - 1 雷別地区国有林位置図



写真 - 1 立ち枯れし笹地となった森林



写真 - 2 学習会で事業概況等を説明



写真 - 3 FM 釧路で事業の取組を PR

旨を伝えました。

平成 19 年 4 月に FM 釧路で放送された「釧路のパワーはここから」に出演（写真 - 3）し、ふれあいセンターの取組などについて PR しました。

その中で、雷別の自然再生事業では、大勢の方に森づくりを体験してもらう「自然再生学習会」を予定していること。タネ拾いを始めとして、今後は苗木の育成、苗木の植栽、植栽した苗木の成長観察などに発展させていきたいことを伝えました。そして、

長いスパンで市民に関わってもらいたい事や雷別の現地までは行けないけれども自宅の庭で広葉樹の苗木作りはできるといったように、様々な形で参加・協力してもらえるような仕組みも考えている事を話しました。

5 月、雷別の森林再生への市民参加を具体的に進める一つの方策として、「雷別ドングリ倶楽部」を立ち上げること、及びその参加募集についてマスコミに記事を投げ込みました。新聞に掲載（図 - 2）されたところ、十数名の方から問い合わせがあり、早速入会したいとの返事の方もありました。

7 月、一般市民を対象として春の学習会を開催し、森林への関心を高めることに努めるとともに、学習会終了後に倶楽部への参加を募りました。新聞報道で既に倶楽部に興味を持って参加した方も多かったため、参加者 11 名のうち半数以上の方が入会を希望されました。

7 月 21 日、11 名の参加を得て倶楽部を正式に立ち上げることになり、初めての会合（写真 - 4）を行いました。倶楽部の目的は、ふれあいセンターが雷別国有林で実施している「雷別地区自然再生事業」の取組に参加することとしました。活動内容は、雷別産広葉樹のタネの採取と苗木育成、育成した雷別産広葉樹苗木の植え付け、天然更新地内の稚樹の刈り出し、活動地内の歩道整備、調査など各種モニタリング調査、自然再生活動全般についての体験・学習を行うこととしました。

3 . 平成 19 年度の倶楽部活動内容

7 月 21 日、初めての会合を開き活動内容等を話し合った後に、8 名で春の学習会の時にタネ播きしたハルニレ苗を移植するための準備として、コンテナ苗育成用のトレイに培養土を詰める作業を実施しました。（写真 - 5）



図 - 2 新聞で参加者を募集



写真 - 4 倶楽部の立ち上げ
育成中の稚樹や樹木の成長量調



写真 - 5 倶楽部による苗木の作成

8月3日、7名が出席して、発泡スチロールの苗床からコンテナ苗育成用のトレイにハルニレの苗を移植しました。このコンテナは、地面から10cm以上離して設置することにより、根が空気層に達した時に剪定したのと同様に伸長を停止する空気根切りという性質を利用して、巻き根のないコンパクトな理想の根系を形成してくれます。床替えが不要でこのコンテナで3年間程育てます。写真-6は、移植後約1カ月のハルニレです。元気に夏を乗り切りました。



写真 - 6 ハルニレのコンテナ苗

9月1日、7名が参加して、広葉樹のタネの実り具合等の調査を実施しました。まず、シラト口沼に注ぎ込むシラト口エトロ川の上流で沢の様子や植生等を観察したり、事業地とシラト口沼等の位置関係を確認しました。事業地近くでは、秋に咲く花を中心として草花を観察・記録しました。午後からは、苗木育成のために必要な広葉樹のタネの実り具合を調べました。今年は、キハダ、ヤチダモ、ミズナラ、カシワは並作、シラカンバ、ダケカンバ、イタヤは極端な不作でした。

10月6日、秋の学習会を実施し一般応募された12名と会員4名が参加しました。会員が調査しておいた広葉樹のタネ採りをミズナラとカシワはシートトラップ(写真-7)で、ヤチダモとキハダは柄の長さが10数mある特殊な鎌で採取しました。



写真 - 7 シートトラップでミズナラのタネ採取

続いて、採取しておいたミズナラ、シラカンバ、ヤチダモのタネを発泡スチロールの箱にタネ播き、ハルニレの幼苗をコンテナ苗育成用のトレイに移植、ふれあいセンターで育成したコンテナ苗木の植栽(写真-8)、植栽したハルニレの苗にエゾシカ食害防護のためのヘキサチューブ設置など、一連の体験作業を会員が一般参加者をリードしながら実施することができました。更に、帰りのバスの中では、参加者に倶楽部加入へのPRを行うとともに、継続した活動への参加を呼びかけました。



写真 - 8 コンテナ苗の植栽

10月25日、参加者は2

名でしたが、採取しておいた雷別の広葉樹のタネ播き(写真-9)をしました。倶楽部が中心となって苗木の育成に取り組んでいますが、春にはタネが期待しているように芽を出し、苗木生産の目途がたてばと願っています。



写真 - 9 広葉樹のタネ播き



図 - 3 自宅の庭で雷別の苗木育成

ふれあいセンターでは、市民が自宅の庭で苗木を育てるお手伝いをしてもらう、「お庭で苗木育成」(図 - 3)を実施しています。今年度は移植した苗木が少なく、地元、標茶町の1つの学校と会員に預ける分しか用意できませんでしたが、来年度以降は標茶町をはじめ近隣の市町村の方々にお手伝いしてもらえるように取り組んでいきたいと思っています。

平成20年2月には、次年度の活動内容の検討を兼ねて「どんぐり教室」を開催し、冬芽の観察や樹皮のフロッタージュ体験を実施する予定です。

4. 今後に向けて

今後に向けては、多くの市民に雷別自然再生事業の取組に参加してもらえるよう、新聞報道だけではなく市町村の広報やふれあいセンターが実施する各種イベントにおいて、事業の取組を更にPRしていかなければなりません。昨年度から実施している「雷別自然再生学習会」や今年度からの「お庭で苗木育成」などの取組を継続して実施し、多くの市民に参加してもらいたいと思っています。

また、釧路湿原自然再生協議会が、自然再生への市民参加を普及・宣伝している「ワンダグリンダプロジェクト」への取組にも登録して、雷別での事業紹介と市民参加を呼びかけていきたいと思っています。

森林再生に伴う活動に多くの人に関わってもらおう取組の一つとして立ち上げた「雷別どんぐり倶楽部」ですが、今年度は、倶楽部の会員数が11名であり、各活動への参加人数も少なかったのが実情です。

倶楽部への参加を呼びかけて(図 - 4)会員を増やしていきながら、自然再生事業に継続して関わる倶楽部の特性を生かして、多くの市民と一緒に自然再生事業の円滑な実施に寄与できる雷別どんぐり倶楽部にしていきたいと思っています。



図 - 4 事業への市民参加呼びかけ